

研ぎ澄まされた 集中力



来年9月開催予定の「ぎふ清流国体」のリハーサル大会である、全国センター・ファイア・ピストル射撃競技大会が開催され、36都府県から66人が参加して射撃の技術を競い合いました。25メートル離れた位置から5分以内に的を撃つ精密射撃部門

と、10秒間のうち青ランプが点灯する3秒間に的を撃つ速射部門で、選手の皆さんは鍛えられた高い技術と集中力を披露しました。普段はめったに見ることができない競技とあって、見学者の多くがその姿に見入っていました。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



園児たち「孫のよう」

稲口の特別養護老人ホーム「ほほえみ福寿の家」へ田原保育園の園児が慰問に訪れました。ステージで歌を歌ったり、元気いっぱいダンスを披露すると入居者らは、かわいらしい歌と踊りに合わせて、手拍子を打ったり一緒に口ずさんだりと楽しそうな表情を見せていました。また、園児とおじさん、おばあさんがペアになって一緒に手遊び歌でふれあい、笑い声が飛び交う和やかなひとときを過ごしました。

昔懐かしい農村風景

9月上旬になると、市内のあちらこちらで稲の収穫が始まります。その折、富之保祖父川地区で見られる景色が、稲の天日干し「はさがけ」です。中島志郎さん宅では、8畝ほどの田で3日間作業しました。手間のかかる作業ですが、日に干したお米はおいしいからと昔ながらの方法で毎年続けています。この時期にしか見ることのできない懐かしい農村風景です。





ぬいぐるみみたい

日吉ヶ丘保育園で移動動物園が開かれ、南ヶ丘保育園の園児も合わせて約60人がポニーやヤギ、ウサギなどのかわいい動物たちとふれあいました。幼いうちから動物に親しみ愛護の心を育てようと、毎年市内の保育園で開かれています。園庭に放たれた数多くの動物に次々と触ってかわいがったり、えさの野菜を与えたりしました。初めて動物に触れた園児らは、嬉しそうな笑顔を見せていました。

人と人のつながりを紡ごう

男女がともに元気で暮らすため、コミュニケーションを通じて世代を超えた仲間づくりや親睦を図る「暮らしを元気にする!コミュニケーション講座」が開かれ、市民50人が受講しました。名古屋学芸大学の上鶴瀬孝志さんが講演され、「きのうの他人でも簡単なきっかけでつながりができること、それには質問上手・聞き上手になることが重要」と説明されました。参加者は、すぐに実践したいと熱心に聞き入っていました。



国体に向かってトライ

ラグビーの地域普及と国体への機運を高める「ラグビーフットボールフェスティバル」が中池公園多目的広場などで開かれました。中学生・高校生の交流試合をはじめ、小学生はタックルの代わりに腰に付けたタグ（布）を奪い合うタグラグビーの大会に約200人が臨みました。選手たちは、トライを狙って全力で駆け回り、熱い試合を繰り広げました。

実りの秋を実感

農家の苦勞を学び、「食」に対する理解を深めようと、下有知小学校5年生が初めて稲刈りに挑戦しました。5月に児童自らの手で苗植えをした学校北側の水田約3アールで、農協職員や地元下有知修徳会の会員らに教わりながら、たわわに実った稲を鎌で丁寧に刈り取っていきました。収穫した米は、後日保護者らとともに、感謝の気持ちを込めて食べる予定です。



こぼれ話



皆さんは、自分のルーツ（起源）をご存じですか。父母、祖父母、曾祖父母、高祖父母・・・と挙げればきりがありませんが、皆さんはどこまで分かるでしょうか。

先日、とある外国籍の方が市役所に来庁されました。その方は、来日に併せて自分が6歳の時に亡くなった祖父（日本人）の親類を探しており、祖父の死亡届の写しを頼りに関市まで来られました。職員が資料をお借りしてみると、福井県出身の可能性があると判明し、該当市に問い合わせました。また、地元

新聞社の協力で、岐阜・福井両地方の新聞にも掲載されました。関係各所の協力のおかげで、福井県に向かわれ、無事にはとこ（祖父の妹の孫）にあたる方と面会できました。ご本人は笑顔で「祖父の家族のことが聞けて、自分のルーツを知ることができてよかった」と話され、後日お礼のメールまでいただきました。

今回の一件で、面会できたとの知らせを受けた時には、心がほっこりするとともに普段は気にしない家族との「絆」や「つながり」を改めて気づかされ、真剣に見つめ直してみようと思う出来事でした。